幼少期からの長期ステロイド使用後に顔・全身症状を経験した成人アトピーの経過（26 歳女性）

症例 ID：001-20-ISh　｜　記録日：不明

1. 診断・治療前経過

幼少期から手足の関節にアトピー症状があり、物心がつく前からステロイド外用薬を使用していました。中学生頃からは瞼、額、鼻の下にも使用するようになりました。

結婚後、瞼と鼻の下の強いかゆみ、顔の赤み、細かなしわ、鱗状の落屑が現れ、化粧品や民間療法も試しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	幼少期から顔と体へステロイド外用薬を長期間使用し、強い薬や内服治療を受けた時期もありました。
製品名	不明です。
強度	複数の強度を使用していましたが、詳細は不明です。
使用期間	物心がつく前から 24 歳頃まで長期間使用していました。
中止時期	1994 年 2 月 4 日の松本医院受診後に中止しました。
来院前／後	来院前に長期使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
幼少期〜中学期	来院前	手足の関節から顔へ症状が広がり、外用薬を常用しました。
24 歳頃	来院前悪化	瞼と鼻の下が強くかゆみ、顔が赤く鱗状にめくれる状態になりました。
1994 年 2 月 4 日	治療開始	松本医院を受診し、ステロイドを中止して治療を始めました。
治療初期	リバウンド期	顔や全身の症状が強く出て、外用処置を家族の支援を受けながら続けました。
約 2 年 9 か月後	経過後	周囲からアトピーと分からないほど皮膚状態が変化し、かゆみや乾燥もみられなくなりました。

4. ピーク時期

ピークは、顔の赤み・腫れ・落屑が強く、全身にも症状が広がった治療初期です。

5. 困りごと

・顔の変化により化粧や外出への負担が大きくなりました。

・長期間の外用薬使用を中止した後、家族の助けを受けて全身の処置を続ける必要がありました。

6. 経過のまとめ

治療開始後は強い症状の時期を経ましたが、約 2 年 9 か月後には周囲からアトピーと分からないほど皮膚状態が変化しました。かゆみや乾燥もほとんどみられず、日常生活を送れるようになりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。